

私は幼い頃、胎児記憶を母親に話したことがあろうだ。その記憶は全くなく、母の思い出話でしかその事実を窺い知ることはいないが、自分が言ったことに間違いはないので、胎児記憶や中間生記憶など、生まれる前の記憶というものは昔から興味があつたし、信じている。また、自分が子供を授かつたら、お腹に宿つた時から毎日話しかけ、赤ちゃんを尊重してあげたいと思つた。そして、生まれれてきてくれたら、どうして私を選んだのか、生まれる前の世界はどうだ？ なのか？ 色々話し、共に様々な経験をしてみたい。私を母にしてくれろ魂のため、選ばれろ人間になるために、今、私はこの課題に取り組むべくして取り組んでいるのだと思つた。

愛弟子の課題が出る前、自分から探したわけでは無いが、縁があり、リイティニグをしてもらつたことがある。私の潜在意識と繋がつて色々教えてくれたのだ。その時はな人となくやつてみようと、いう気持ちだ。たの



で、何を聞けばいいのかも定まらぬまま受けてしまつた。今となつては、もつと色々聞いたり良かつたと思つた。しかし、その経験がめづからからこそ、こつた話もあり抵抗なく考えることができていふと思つた、意味のあることだ。たつたと思ふ。

本書の「御霊へみたまへ」というワードが気になつた。ここでは詳しく書かれていふか？ たつたで調べてみると、衝撃的な事実にたつた着いた。私たつたは皆むとつたの魂であり、神であるといふのだ。まだ完全には理解できていないが、全ての人を尊いと思つたためには納得だ。たつた。また、自分が神であるといふことは、神社にお参りし、願ひ事をすつたのはあかしなことで、たつたといふことも分かつた。すめれりやんが、神社は決断とおれをすつたところと言つていたのも、これは自分に言つていふことになつた。自分に願ひしても、どつたなるかには自分次第であり、自分がやりたこと自分を決定し、行動する。そして、自分が生かさ

れていること、様々な経験ができてくることに感謝する。そうすることによって自分が進むべき道や、大きな天命も見えてくるのだと思う。

私の問題点は、自分を愛することはまだまだできていないことだ。『我』というゴミに振り回されていく。気を抜くと、自己否定の方向へ走ってしまう。『も』と些細なことについて感謝し、自分を認めあげなければと思っただけ。この世も宇宙も全て愛だ。自分の中にある愛の発電機を『も』と稼働させ、愛を大きくしなればならぬ。今この人生は、宇宙に持ち帰るための経験であり、自分が善いたしナリオだ。全て自分が決めたこと。辛いことだとしても、その人生をし『か』り生き抜き、様々な経験をすることによって自分の魂の喜びもあることを忘れずに生きようと思おう。自分が愛するものばかりだということも忘れずに。